

Vol.
70

朝倉川通信



発行／特定非営利活動法人朝倉川育水フォーラム

〒440-8508 豊橋市花田町石塚 42-1 豊橋商工会議所内

Tel 080-6923-5257 URL <http://www.asakuragawa.net>

Fax 0532-53-7210 E-mail hotaru@asakuragawa.net

令和2年度朝倉川育水フォーラム

定時総会開催

令和2年6月6日(土) 令和2年度の定時総会がカリオンビル6階ホールで開催されました。

令和元年度事業報告、決算報告、役員選任、令和2年度事業計画・予算案について討議可決されました。

理事長が高橋豊彦さんから大谷忠興さんにバトンタッチされました。より一層活動の巾が広がる事が期待されます更なる活動の充実と未来を支える世代への啓蒙活動にも一層の重点を置いた活動の継続が提案されました。

今年は新型コロナウィルスにより、総会も大幅に縮小したものになりましたが、これからも生き物の命あふれ、ホタル舞う朝倉川を守るためにご協力、ご支援よろしくお願い致します。

-2頁に関連記事掲載-



<新理事長 大谷忠興さん挨拶>

第24回530大会は中止

多くのご応募を頂きましたが、新型コロナウィルス感染防止を考慮して24回大会は中止しました。

次回は 2021年4月17日(土) 予定

来年もたくさんの皆様ご参加ください。

第18回植樹メンテナンス大会

11月14日(土) 第18回の植樹メンテナンス大会が実施されました。新型コロナウィルスの感染症対策を参加者の方に注意して頂いての大会となりましたが、20団体400人の参加でした。

秋晴れの天気の中、わずか1時間の作業で朝倉川の対岸を見渡す事が出来る気持ちのいい散歩道となりました。



次回は 2021年

11月13日(土) 予定



令和2年度 定時総会報告

活動方針

令和2年度総会が開催されました。(一面に関連記事)今年度の活動内容の詳細です。
平成7年の創立以来25年目を迎え、河川を中心とした自然環境の保全に向けて活動
している私たちにとって、事業の継続性ということは大きなテーマとなってきます。

そのためにも、組織そのものの「持続可能性」にむけて、組織の増強や運営面の見直しなどを具体的
に行っていかなければならない時期にきています。そのためにも、現在行っている事業の更なる進化
を支える人たちが多く集えるような様々な試みをしていきます。

【活動計画】

- ビオトープ事業や河川調査などを中心に、多くの子どもたちが自然に触れ合う場面づくりの充実
- 井原第二公園のゲンジボタル再生のため、地域との協働していくための仕組みづくり



- 法人会員を中心とした会員増強と会員サービスの強化
- 「朝倉川通信」、ホームページ(スマホ対応など)、SNS等様々なツールを活用した、地域への活動に対する理解の促進
- 副理事長・委員長主導による事務局を含めた各種作業の効率化にむけての見直し

QRコード決済を利用した会費徴収のしくみに向けての検討など
本年度も、数多くの事業を予定していますので宜しくお願いいたします。



昔も今もガサガサを楽しんでいます

朝倉川河川調査チーム

高須 博久



朝倉川育水フォーラムでは2002年から河川調査を続けてきました。指標生物の生息状況およびパックテストによる水質調査を季節毎に4ヶ所(①西郷橋上流②競輪場北部ステージ付近③公園橋下流部の内山川との合流点④滝ノ谷池ビオトープ)で定点調査をしました。

調査の結果、水質はこの18年間大きな変化はありませんでした。PHはほぼ7となっています。生き物については競輪場北部にここ数年来ホタルが飛ぶようになりました。永年にわたる530大会と地域の人々の協力のおかげだと思います。東田小学校の4年生の皆さんはガサガサの授業で生き物の勉強をします。

朝倉川には魚が20種類、エビ・カニ、貝、水生昆虫、ヤゴ、カエル、カメなど多様な生き物が住んでいます。育水フォーラムでは夏休みに「朝倉川ガサガサ探検隊」を開催します。親子連れが50名ほど参加してくれます。鳥居アドバイザーが作ってくれた「川の中の生き物を調べてみよう」を片手に、ガサガサで捕まえた生き物をを親子で調べます。私たち河川調査チームは生き物を水槽に入れて「朝倉川ミニ水族館」を作ります。何年もガサガサを続けていると川に住む生き物たちの気持ちがわかってきます。大人も昔の川ガキに戻って半日楽しく過ごします。来期も実施しますので、ぜひ皆様ご参加ください。



朝倉川へのメッセージ

例年は 530 大会の併催イベントとして、朝倉川への思いを 1 枚のハガキに絵やイラストで描いて応募していただき、総会に入選作品の表彰をしていました。今年は新型コロナの影響で学校が休校になってしまったため応募期間ががずれてしまいましたが、555 点（昨年 483 点）もの作品が寄せられました。

その中から最優秀賞、優秀賞、入選に選ばれた 28 作品を紹介します。

最優秀賞



＜青谷玲桜＞

☆☆入選者一覧☆☆

(敬称略)

最優秀賞	青谷玲桜	渥美諒祐	岩田くるみ	柿野みちる
優秀賞	蛭澤萌乃	小澤智也	木本明希	近藤里胡
	白井紀帆	松井里緒奈		
入選	赤松舞海	市川葵	奥村芽依	河合芽栄草
	河合咲奈	サントスムリロ	白井南帆	鈴木新菜
	鈴木春来	辻小菊	平松しき	藤原志帆
	杉本音緒	布藤暁子	村田若菜	森下共介
	森田朱里	谷口鼓太郎		



＜渥美諒祐＞



＜岩田くるみ＞



＜柿野みちる＞

優秀賞



↑＜蛭澤萌乃＞



↑＜木本明希＞



↑＜近藤里胡＞



↑＜小澤智也＞

↓＜松井里緒奈＞



＜白井紀帆＞



入 選



＜赤松舞海＞



＜市川葵＞



＜奥村芽依＞



＜河合冴栄草＞



＜河合咲奈＞



＜サントロムリロ＞



＜白井南帆＞



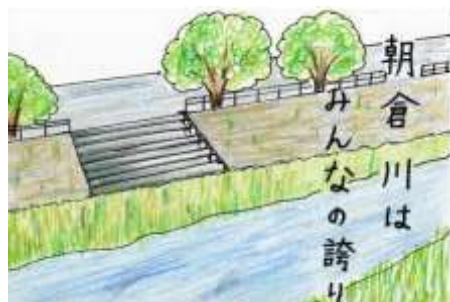
＜杉本音緒＞



＜鈴木新菜＞



＜鈴木春来＞



＜辻 小菊＞



＜布藤暁子＞

皆さんはヒメタイコウチという水生昆虫をご存じでしょうか？この昆虫は、水生昆虫でありながら水深がある環境下におくと溺れます。翅があるのに飛んで移動することも出来ません。半陸生ですので、餌の殆どをミミズや小さなバッタ類に求めて、他の水生昆虫が狙う小魚やオタマジャクシには手も足も出ません。水生昆虫の世界から見て異端中の異端、水と陸の境目で生息しながら持ち合わせた素晴らしいスペックを活かしきれない、少し残念な面はありながらも、そのニッチな環境で泥にまみれて一所懸命に生き抜く水生昆虫です。

この特殊な特徴を生息環境に照らし合わせてみると、池や河川ではなく通年安定した浅い水深がある湿地や湿原、または湧水がありその環境を保持できる場所でないとは継続して暮らしていくことは困難になると言えます。更に、その環境が悪化しても飛翔による移動が出来ない為、ただでさえ限られた地域の局所にしか生息していないのに、その局所では完全に絶滅をしてしまいます。近年の乱開発により、その生息環境の多くが失われ、東海地方では愛知県西尾市、三重県桑名市においても天然記念物指定、愛知県全域でみても準絶滅危惧種の指定を受ける希少昆虫の類になってしまっています。

然しながら、本会が管理する多米のピオトープにおいては多くの皆様のご協力による保全整備が進み、近年生息数が増えている大変喜ばしい状況が生まれています。もちろん、ゲンジボタルも安定的に増えておりますし、「ホタルのとびかう人里づくり」を継続してきたからこそその副産物です。我々も都市と自然の境目で、その調和を目指した環境活動をするヒメタイコウチのようなまだまだニッチで少し異端な存在です。ヒメタイコウチのように持ち合わせながらも活かしきれないスペックもあるはずですし、その活かし方もあるはずです。その調和の最善に向けてヒメタイコウチのように泥臭く頑張りながら、共感する仲間を増やしていけたら素敵な事だと思っています。

最後になりますが、多米のピオトープにおける大原則である「持ち込まない、持ち出さない」を大切にいただき、皆さまにも整備作業などの機会を通じて、是非、泥にまみれながらも一所懸命に生き抜くヒメタイコウチの観察にお越しいただければと思います。

入 選

↓＜平松しき＞



＜藤原志帆＞



＜村田若菜＞



＜森田朱里＞

←＜森下共介＞



＜谷口鼓太郎＞

環境学習

ビオトープに来てもらったり、学校に出かけたり、時に朝倉川で生き物や水質調査を一緒にしたり、年に何度も出前授業をしています。子どもたちから教えられる事もたくさんあります。



＜桜丘中学校＞



＜嵩山小学校＞



＜東田小学校＞



朝倉川探検隊

8/2（日）コロナが続く中でしたが、楽しみに待っていた生き物調査です。川の水量も少なく子供たちの網には魚はなかなかはいってくれませんでした。猛暑日が続いていたこの夏に一時涼しくなった催しでした。



育水という想い



「水の循環をイメージし、太陽が輝く時もあれば、雨が降る時もあり、そのどちらも欠けてはならない自然界の陰陽。

雨が染み込んだ山から川へ、そして海へ…

その過程では生き物に必要な水となり、それがまた天に登り命が循環していく事を表現。」

私たちの「育水」の理念を鈴木愛さんに表現し

て頂きました。ユニフォームも新しいデザインでリニューアルしました。



ビオトープ便り・春編

コロナで大変な時ですが、ビオトープではその時々気になる作業を着々と進めています。雨にも負けずイノシシにもめげず、みなさん結構楽しそう!?あなたも是非おいで下さい。



＜田植え＞



←＜水路の補修＞



＜広場の草刈り＞



＜仕事の後は沢遊び＞

ビオトープ便り・夏秋編

ビオトープの春から夏は草との闘い。近年はイノシシとも。たくさん子どもたちも作業に加わって、いつの間にか生き物観察会になったり、おやつ作りになったりと良い時間を

を過ごしています



＜イノシシ対策＞



＜草刈りの強力な味方＞



＜枝打ち作業＞



作業の合間の子どもたち

＜新しい道具置き場作製＞



＜作成中＞



＜完成＞



収穫祭をしました。今年もイノシシには負けましたが、竹ごはんを作り

栗ごはんや焼き芋も作って今年もおいしい収穫祭になりました。

刈り取った稲で次回は縄作りします。



スライダースで焼き物作りに挑戦



会費納入のお願い

会費のお振込みがまだの方、ご入金をお願い致します。お近くの理事にお渡し頂くか直接事務局までお届けください。



＊全てのお申込み・お問い合わせは＊

特定非営利活動法人朝倉川育水フォーラム

〒440-8508 豊橋市花田町石塚 42-1

TEL 080-6923-5257

FAX 0532-53-7210

URL <http://www.asakuragawa.net>